発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町3−6
☎ 0959(72)3957
●ホームページ●
http://fukuechurch.jimdo.com

先回りはできないけれど 先を歩いている人はいる

主任司祭　**中田輝次**

堅信の秘跡を受けた中学生の皆さん、おめでとうございます。堅信の秘跡は「一度きりのお恵み」ですから、秘跡のお恵みは完成しました。しかし「堅信の秘跡を受けた人」の完成はこれから始まります。これからも教会に顔を出して、まだ名前も顔も覚えていない主任司祭に「そろそろ顔と名前、覚えてね」とアピールしに来てください。「この子はこの前堅信を受けた生徒かな～。」ミサの帰り、主任司祭はそんなことを考えながら顔を眺めています。すでに堅信を受けた大人たちも同じ思いでしょう。

「大人の信者のふるまい」を見たことがあるので紹介します。堅信の秘跡を受けた人が自分の兄弟姉妹や親戚の洗礼式で「代父・代母」を務めることがあります。「大人だなぁ」と感心します。代父・代母を務める本人も誇らしげです。堅信の秘跡を受けた人は、自分にできるようになったことを立派に果たすことで、大人の信者として完成されていくのです。中田神父に「叙階の秘跡」を授けてくださった故フランシスコ・ザビエル島本要大司教様は、いろんな場所で「大工は大工をしながら大工になる」ということわざを話しておられました。さらにこれをもじって、「司祭は司祭をしながら司祭になる」と励ましてくださいました。長い道のりを経て、味のある司祭になっていく。そういうことなのでしょう。

気がついたら司祭生活も30年を過ぎてしまいました。果たして私は、本物の司祭になってきたのでしょうか。助任司祭たちはこの主任司祭を見て、「ああいう点を見倣おう」と思うのでしょうか。それとも「ああいう司祭にはなるまい」と思うのでしょうか。助任の時代にお仕えした二人の主任神父様、一人は「お前なぁ、60(歳)にならんと言えんこともあっとぞ」と戒めてくださいました。一人は「聖堂はまず祈らんば建たんとぞ」と、ふだんどれだけ主任神父様が祈っておられるかを示してくださいました。

私たちは、人生を先回りすることはできません。残念ながら、一寸先すら見通せないのです。ただ一つできることがあるとすれば、同じ道で先を歩いている人を眺めるだけです。疲れたり止まったり、まだその時でもないのに尋ねてきたりします。本当に完成に向かって歩いているのだろうか。そんなベテランの姿が次の一手を考えるヒントだったりします。

1月の司祭団マラソン大会は、不本意ではありますが堂崎からの9キロコース（ラン）ではなく、浦頭からの5キロコース（ウォーク）に参加しました。直前に右のふくらはぎを痛め、走るのは難しいなぁと思い、大事を取りました。来年は、9キロを45分で走った助任神父様と勝負だ！

井持浦ルルド創設125周年

助任司祭　**稲田祐馬**

井持浦教会にルルドが創設されて、今年2024年で125周年を迎えます。5月12日（日）13時から井持浦教会でルルド創設125周年祭を行いますので、ご都合のつく方はぜひお越しください。今回は特別に大司教様もお呼びしてのルルド祭です。

井持浦ルルド125周年を迎えるにあたって、井持浦ルルドの由来を、100周年記念誌を参考にして、簡単にご紹介したいと思います。

1873年にキリシタン禁制が解かれてから、五島各地にも次々に教会が建てられ、宣教師も派遣されました。全五島の司牧を任せられたペルー神父様は、バチカンの庭園にルルドの洞窟の模型が造られたことを聞いて、五島にもルルドの洞窟を造ることを決めます。場所を井持浦教会の脇に定め、全五島の信徒に協力

を呼びかけ着工します。五島の各地から美しい石を運び込んで、信徒代表たちが建築に奉仕して１８９９年に完成しました。ペルー神父様は、故郷フランスからルルドの聖母像を取り寄せて洞窟に納め、また同じくルルドの水も洞窟横の泉に注ぎ入れました。１９００年にはクザン司教様により盛大な祝別式が行われました。日本で初めてのルルドで、東洋でも初めて、世界的にみても最も早く造られたものの中に入るだろうと言われています。

ペルー神父様はフランス人でしたから、日本での宣教は、ご自分の故国で起こった、マリア様のご出現の出来事に励まされながらの宣教だったのかもしれません。井持浦ルルドは五島の教会の歴史と共にあったルルドだ、ともいえるかもしれません。

百年祭のとき島本大司教様は、「日本の教会の歴史をマリア様なしに語ることはできません」と述べられました。１５４９年8月15日、聖母被昇天の日にフランシスコ・ザビエルは日本に到着し、イエス様の福音がもたらされました。キリシタン弾圧の最中も、信仰を守り通すことができたのは、マリア様の取り次ぎがあってこそでした。日本の信徒発見の出来事で、「サンタ・マリアのご像はどこ？」と発した浦上の信者の言葉は、その象徴的な言葉です。今年は、マリア様の御保護のもとにある日本の教会、長崎の教会、五島の教会の節目の時です。ぜひみなさん、井持浦ルルド１２５年祭にお越しいただき、一緒に祈りましょう。

新興宗教にお気をつけください -Part2-

助任司祭　**西田祐尚**

２０２２年9月18日付第２３４号にて、私は「ご注意ください」というタイトルで新興宗教に関してのメッセージを発信しています。昨今は、あまりニュースの話題には上がりませんが『旧統一教会』をはじめとする多くの新興宗教が日本にまだ現存しています。この春、皆様のお子様やお孫さん、また、まだ20代の若い親戚の方々など、多くの若い人々が五島を離れ都会で生活し、また親戚の子がすでに都会暮らし真っ只中という方々もいらっしゃるかと思います。すべての新興宗教が要注意というわけではありませんが、カルト宗教（新興宗教）に嵌らないために注意すべき新興宗教についてお話しいたします

①新興宗教（カルト宗教）はどのようにして私たちに近づくのか。

新興宗教による私たちへのアプローチは実に様々ですが、『旧統一教会』を例に見ていきたいと思います。まず私も調べたところの話ですが、大学等のサークルなどに潜んでいるケースです。初めはバレーボール、テニス、サッカーなど、スポーツ系のサークルなどに人を誘い人間関係を造ります（文化系のサークルも勿論可能性あると思います）。ある程度の関係性ができてきてから街頭ボランティア活動などに誘われるようになり、次第に自己啓発を目的としたセミナーや1泊2日の研修などに来ないかと誘われるようになります。ただ単にスポーツをするだけならまだしも、自己啓発等を目的とした集い等には絶対に参加しないでください。また携帯電話、住所などは気軽に教えるべきではありません。そこから執拗にゴスペルコンサート、ボランティアや学習会、研修等に誘われる可能性があります。また、こういった手口はよく一人で行動している人にかけられるようです。人見知りの方は特にご注意と言いたいところですが、あまり気を張らなくても大丈夫です。特に大学等は案外すぐ様々な人々と友達になれますので（経験上　笑）。他にもサークルだけでなく直接家庭訪問をしたり、街中で声をかけて来たり、街中の街頭に立って「聖書を読んでみませんか」という看板を掲げている宗教もあります（エホバの証人という宗教。自称キリスト教としていますが、カトリックもプロテスタントもキリスト教と認めていません）。まず、街中で聖書の看板を掲げている宗教は基本的にこちらから声をかけなければ何も問題ないですが、万が一、声をかけられても丁重にお断りしてください。また2人組で家庭訪問をしてくるのもエホバの証人の特徴です。「良ければお話を聞いてくださいませんか。神様について話をしませんか」と家に入ろうとしますが、上げてはだめです。お断りしてください。そして、街中で「英会話教室に来ないか」などと自転車ヘルメットをかぶり男性はスーツ、女性は普通の洋服で男性も女性も胸元に名札をつけている人々がいます。彼らは、モルモン教（正式：末日聖徒イエス・キリスト教会）の人々です。声をかけられても、ついて行ってはいけません。

②注意すべき新興宗教

・創価学会：献金問題や脱会希望者

を執拗に追い回すなどの被害があります。

・幸福の科学：大きな被害は報告されていませんが、一部献金問題や特に、教団を維持するために、仏教やキリスト教からの改宗者を狙っている部分があります。

・統一教会（現：世界平和統一家庭連合）：執拗な勧誘、献金問題、それによる家庭崩壊など、様々な被害が報告されています。

・新天地イエスの証しの幕屋聖殿（通称：新天地）：韓国などで社会問題になるほどの新興宗教、コロナ禍の大規模集会開催や教会乗っ取りなどの被害が報告されています。日本にも入ってきているようです。

（以下は名前だけ。詳しくは各自お調べください）

・摂理（韓国系カルト教団　キリスト教ではありません）

・エホバの証人

・モルモン教（正式：末日聖徒イエス・キリスト教会）

他にも、要注意なカルト教団はいくつかありますが、中でも要注意なものを紹介しました。特に今年島外へ旅立つ青年の皆様（私も含めて）若い皆様、注意しましょう。また困ったら親にまたは教会に相談してください。皆様の新生活、人生の上に神様の大きな祝福がありますように！

下五島地区 合同堅信式 -2024-

去る1月21日（日）11時より福江教会にて、下五島地区合同堅信式ミサが中村大司教様の司式にて執り行われた。堅信の秘跡に与ったのは各教区から計18名で、そのうち福江教会からは9名であった。

【福江教会受堅者】

ミカエル	入口 正大
フィリポ	小畑 和成
ヨアキム	堺 悠太
F・ザビエル	中村 学利
エフレム	濵口 楓人
アンナ	岩下 聖來
セシリア	中里 莉望
マリア	西津 美陽
M・マグダレナ	真鳥 咲衣子

受堅者の家族や関係者など信徒約２００名が参列し、緊張感に包まれながらミサが進行した。堅信の儀に移り洗礼の約束の更新と信仰宣言がなされたあと、大司教様と司祭方による按手と聖香油の塗油が行われた。

中村大司教様は説教の中で、テレビドラマ「学校のカイダン」の一場面をお話になり、社会生活や信仰生活の中で起こりうる様々な矛盾や葛藤に対し「悪いことは人のせいにして、あの人がいるから、あの人が悪いから…そうではなく、この私が悪いんだと、イエス様は責任を取って、あの十字架の責任を取って下さった。みんなで天国の門を広げて、この先頭に立って、責任を押し付けたりせず、励まし合いもう一度歩いていける勇気を与える。」

「押し付けたり、見て見ぬふりしたりしない。知恵を出しあい、協力しあう教会。キリストと出会って、私たちに洗礼、堅信を受けて、キリストともに成長していく。祈りとともに、一緒に歩んで行ってください。」と訴えられた。

ミサの最後に感謝式が行われ、受堅者と保護者の代表から大司教様へ感謝の言葉と花束の贈呈があった。最後に大司教様より「本日堅信を受けられたみなさんおめでとうございます。堅信式は、司祭で言うと信徒の叙階式です。皆さんにあと足らないのは『覚悟』だけです。覚悟をもって、イエス様と一緒に歩んで行ってください。」とのお言葉があった。

青年会ミニバザー

12月10日（日）2番ミサ後に、信徒会館にて青年会主催のミニバザーが行われた。オープンと同時に多くの方が訪れ会場はすぐにいっぱいとなった。

商品のほとんどが手作りの品で、ブックカバー、巾着袋、トートバッグ、エプロン、コースター、クリスマスカード等手芸品は種類も豊富。クッキーやケーキなどのお菓子類も人気で売り切れが続出するほどだった。そして、今回は会場に喫茶も併設し買い物のあと紅茶やコーヒーを笑顔で楽しんでいる方も多く見られた。今回のバザーの収益は79、751円で、同時に設置していたカリタスジャパンへの募金額は5、852円。うち、40、000円をカリタスジャパンへ送金、45、603円が青年会活動費として活用されるとのこと。

バザーの準備から取り組んだ青年会スタッフの皆さん、そしてシスター方本当にご苦労様でした。信徒間の交流にも繋がったと思います。今後とも、青年会の活動を大いに期待しています！

司祭団マラソン大会

1月30日（火）4年ぶりとなる2023年度司祭団マラソンが開催されました。

当日はマラソンに適した天候に恵まれ、メディカルチェックの後に堂崎天主堂前をスタート。福江教会（約8・5㎞）を目指し奥浦地区から福江地区を駆け抜けました。沿道には特設エイドステーションもあり、シスター・信徒・平和のばら保育園、聖マリア保育園の園児達も熱い声援をおくりました。

マラソン部門の優勝は下原和希神父様、ウォーキング部門の優勝は中田輝次神父様でした。これからも健康にも気をつけて頂き、宣教司牧に日々邁進してくださる神父様方に感謝致します。お疲れ様でした!!

3度目の正直？小神学校に行ってきました！

福江中2年　濵口楓人

コロナの影響による諸事情もあり、ここ2年は誘いを受けながらも実現できず、今回ようやく「小神学校・1泊体験入学」への参加が叶いました。1人での船旅で不安もありましたが、長崎に降り立つと迎えて下さった山口院長神父様との夢彩都でのランチタイムでスタートとなりました（調子に乗って、ライスは大盛りにしました。）

緊張しつつ小神学校に入ると、初めて会うはずの人達が、まるで懐かしい人との再会を喜ぶかのように、温かく迎え入れてくれた…まさにそんな印象でした。小神学校での2日間はあっという間でした。ということは「楽しく充実した時間」であったのだと思っています。一緒に体を動かしたり、祈ったり、食事をしたり、会話したり…。ごミサに姿を見せた中村大司教様は、僕の姿を見つけると、こちらが気恥ずかしくなってしまうくらいのオーバーリアクションで手を振ってくれました。昨年の堅信式以来、久しぶりに顔を見ることが出来て嬉しかったです。

活動の中で一番心に残っているのは「国を渡った4人の司祭たち」というPVを見せてもらったことです。韓国から日本へ司牧者として派遣されている4人の神父様方のお話です。福江教会にいたキム神父様も出ています。4人の神父様方が、どのような思いで故郷を離れ、日本での司牧生活をしているのかがよくわかりました。僕がもし神父になったとして、どこかよその国へ司牧に行けと言われたらどうするか…と考えると、言葉の問題や生活環境の変化、治安の問題など、即、現実的な問題に目が行くのかもしれません。実際まだ子供なので、夢や目標、それを叶えるための手段を思いつかないのが現状です。ですが、少なからず「日本であれば…」との思いは残ったので、現状として「南山高校への進学を目指すこと＝神学校へ行くことを目標に、頑張りたいと思います。今回の体験入学に尽力してくださった神父様方、ありがとうございました！

1泊体験入学の最後に記念写真（後列右端が濵口君）